

序

皆さまと本書の出会いに感謝します。本書は、医学生から臨床現場でご活躍されるすべてのメディカルスタッフに読んでいただきたいと願い作成しました。

血液ガス分析は胸部単純X線写真の読影と同じで、ぼんやり眺めると多くを見落とす緊急検査です。研修医の多くが、血液ガス分析や輸液療法に“しっかりと理解できていない”と苦手意識をもつようです。その理由は、たまたま実践的でよい教育を受ける機会がなかったためでしょう。そこで、この状況を打破すべく、臨床経験の少ない方にも、どのようにしたら血液ガス分析の正しいやり方が伝わるかを、常に考えてきました。本書にはそのノウハウを詰め込みました。誰でも正しい判断に辿り着ける新たな血液ガス分析法のご提案、それが「7アクション」法です。

第1部は、座学用の血液ガス分析・ノウハウのエッセンスです。第2部は、実習編です。小児から高齢者まで、50症例の演習を通してパターン化した解析が簡単にできることを体得してください。そして、「一般外来診療の場面では、血ガス分析をせずとも、酸塩基平衡障害の存在を推測できる例がある」ことを知りましょう。Na、K、Cl値のバランスにこそ大切なヒントが隠されているのです。

特にお伝えしたいのは、放置されがちな血清Cl値への注目です。体液異常の見落としを少なくする、「血清(Na-Cl)値の意義」を体得してください。

データを比較して考えるのが「ペア解析」法です。ペア解析を利用して血液ガス分析が即断できるように考案したのが「7アクション」法です。7つのステップを身につけてください。繰り返す演習で必ず習得できます。

《お勧めの読み方の一例》

- ★「医学生の皆さん～救急現場の看護師さん」：第1部-1と-2は必ず読破しましょう。その後、第2部の実践トレーニングStep1（入門編）の10題の演習問題をこなしてください。
- ★「研修医の皆さん～個人診療所の先生方」：第1部-1と-2に加えて-3をお読みください。そしてStep2（初級編）の10題の演習問題も考えてみましょう。簡単に解析できた方は、Step3（中級編）の18題へのチャレンジが待っています。
- ★「血液ガス分析に不安のない方」：Step4（上級編）をひも解いてみてください。

巻末の「血ガスミニレクチャー」では、知っておくべき必須知識や生理学的背景を解説しています。演習でつまづいたときや復習するときに繰り返して読んでください。

血液ガス分析を“即断できる得意ワザ”として体得していただければこのうえない喜びです。

最後にレジデント時代に、輸液療法と血液ガス分析をわかりやすく教えてくださった恩師吉田滋彦先生に感謝いたします。本書を出版することを強くお勧めいただいた羊土社編集部の方秋本様に御礼申し上げ、同社溝井様と吉川様の手直しなしでは、本書が完成しなかったことを追記いたします。

2013年2月

白髪宏司